

## ならちゅうしん経営研究会 例会報告

### 第 365 回 研究会

**日時** 令和 5 年 6 月 21 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 40 分  
**場所** 奈良中央信用金庫 3 階 ホール  
**講師** 野村アセットマネジメント株式会社  
シニア・ストラテジスト 石黒 英之 氏  
**テーマ** 「当面のグローバル相場の見通し」  
~選球眼が試される局面に~

最初に、上田会長より開講の挨拶があり、今年度の経営研究会を締めくくる経済セミナーを開始しました。今回は野村アセットマネジメント株式会社よりシニア・ストラテジストの石黒英之様をお招きして「当面のグローバル相場の見通し~選球眼が試される局面に~」と題して、ロシアのウクライナ侵攻を契機とした円安の進行、物価上昇と情勢は混沌とするなか、国内の景気動向や緊迫する国際情勢の行方等々、内外の経済情勢と今後の展望などについて、お話を頂きました。石黒先生はテレビ東京系列のモーニングサテライトにゲスト出演されており、テレビでもお馴染みのエコノミストです。

まず最初に世界経済の趨勢を解説頂きました。1973 年から 2022 年にかけての 50 年間で世界の人口は 39.4 億人から 77.7 億人に約 2 倍に増加しています。一方世界の名目 GDP は 4.7 兆ドルから 97 兆ドルに約 20 倍に増加しています。これは先進国の成長に加えて、新興国の経済発展によることが大きく、世界需要の大きな拡大が見られます。経済発展に伴い物価が上昇し所得水準も上昇しており、貧困者は減少しています。今後、新興国の更なる成長が見込まれ、平均寿命が延び、貧困が無くなる明るい未来が待っているのではないかとのお話でした。

続いて、アメリカの金融情勢について解説を頂きました。金融システム不安に伴う信用収縮がどの程度となるかが焦点とのことで、プラス要因としては①アメリカのインフレに鈍化の兆しが見えていること、②FRBの利上げが止まる期待が見えてきたこと、③金融機関破綻による金融不安に後退観測が見えてきたことなどが上げられ、マイナス要因としては①アメリカ経済に景気後退と企業業績の下振れ懸念が見られること、②ロシア・ウクライナ情勢など地政学リスクの長期化懸念があること、③中国経済の年後半の失速懸念などが上げられるとのことです。

続いて国内情勢について解説を頂きました。日銀の総裁が交代したことにより金融政策の修正があると思われませんが、修正による円高リスクは限定的との予測です。株式市場については、今回の株価上昇は、小泉内閣時代の構造改革期待や、第 2 次安倍内閣時代のアベノミクス期待のような政治主導ではなく、今回は企業主導の変化であることに期待でき、当面

はPBR（株価純資産倍率）2倍、ROE（自己資本収益率）10%の壁を超えることが出来るかどうか観測していく必要があるとのことでした。

講演の最後には中国情勢についても解説を頂き、不良債権問題が足かせとなっていることや若年層の失業率が上昇し社会不満が充満していることなど、厳しい状況が続くとの見方でした。講演のあとも、参加者より内外の経済動向に対する多くの質問があり、今年度最後の経営研究会を締めくくりました。

以上



上田会長 ご挨拶



講師 野村アセットマネジメント 石黒 英之